

【さとうきび】

1. 作付の概要

2005/2006年さとうきび年期の鹿児島県の収穫面積は8,749 ha、前年比91.6%で前年より800 ha程度減少した。この減少は熊本地域、奄美地域のいずれの島においてもみられた。作型では春植え20%、夏植え24%、株出し56%であり、夏植えがやや増加した。品種の構成ではF177が大きく減少し、NiF8がやや減少、これらが減少した分、Ni17の普及が進んでいる。

沖縄県の収穫面積は12,485 ha、前年比91.7%であり、前年より大きく減少した。地域別にみると沖縄本島地域(9.9%)、八重山地域(13.6%)における減少が大きかった。作型では春植え11.9%、夏植え48.5%、株出し39.6%で、前年と比較すると夏植えの比率が3%程度増加し、春植え、株出しの構成比がそれぞれわずかに低下した。品種の構成ではF177、NiF8、Ni9が減少し、Ni15、宮古1号の普及が進んでいる。鹿児島県においては分蜜糖工場の製糖は種子島で始まり(2005年12月12日)、種子島で終了した(2006年5月2日)。沖縄県では分蜜糖工場の製糖は沖縄本島南部と石垣まで始まり(2005年12月20日)、久米島で終了した(2006年4月1日)。

2. 作柄の概況

鹿児島県では与論島など一部を除き、生育期を通して比較的、天候に恵まれた。9月上旬に台風14号が接近したが、折損などの被害は比較的軽かった。その結果、収穫面積は大きく減少したにも関わらず10アール当たり収量は、県平均で6,099kg、前年比14.9%増加した。その結果、総生産量は533,594トンで史上最低の生産量であった前年実績より26,821トン、5.3%増となった。甘蔗糖度の県平均は13.6%であり、こちらも前年度を上回り、結果として歩留りは向上、産糖量も12.3%増加した。

沖縄県では年の前半においては平年並みの降雨があり、気温は概ね高め、日照は平年並みで推移した。しかし、その後、7、8月には台風等の影響をよく受けた宮古、八重山地域を除き、沖縄本島とその周辺部、大東地方では記録的な小雨となった。生育旺盛期の6月から9月にかけて6個の台風が接近し、特に大東地域と八重山地域で倒伏、葉の損傷など大きな被害を受けた。沖縄県においても鹿児島県と同様に収穫面積は8%程度減少した。10アール当たり収量の県平均は5,442kgで、非常に低かった前年の4,988kgを9.1%上回った。しかし、このうち、反収が大きく伸びたのは宮古島(6,592kg)で、特に南北大東島、本島周辺の離島地域の収量は低かった。さとうきびの総生産量は679,419トンで前年実績より0.1%の微増となった。地域別にみると前期に比べ、沖縄地域で11%、八重山地域で12.2%の減、宮古地域で24.2%の増収であった。甘蔗糖度の県平均は14.4%であり、こちらは前年度を7.5%上回り、結果として歩留りは向上、産糖量も7.9%増加した。

(九州沖縄農業研究センター バイオマス・資源作物開発チーム(さとうきび育種ユニット) 松岡 誠)

2005/2006年期の沖縄、鹿児島両県のさとうきび生産実績

県別	年次	農家戸数 (戸)	収穫面積 (ha)	10a 当たり 収量 (kg)	収穫量 (ton)	甘蔗糖度 (%)	産糖量* (ton)	歩留まり** (%)
鹿児島	05/06	10,408	8,749	6,099	533,594	13.6	63,076	11.81
	対前年比	96.5	91.6	114.9	105.3	107.9	112.3	106.7
沖縄	05/06	17,646	12,485	5,442	679,419	14.4	83,349	12.13
	対前年比	97.4	91.7	109.1	100.1	107.5	107.9	108.1
両県合計	05/06	28,054	21,234	5,713	1,213,013	-	146,425	-
	対前年比	97.1	91.7	111.6	102.3	-	109.7	-

* : 含蜜糖を含む生産量

** : 分蜜糖のみの歩留り

さとうきび及び甘しや糖生産実績(鹿児島県、沖縄県)より抜粋、編集。